

# 縹葉枯病抵抗性で茎葉多収、高糖分のイネWCS専用品種「つきすずか」

縹葉枯病が発生しやすい地域でも高品質なイネWCS生産が可能

## 研究開発の背景

- ・先行品種「たちすずか」は、牛にとって消化性が良い茎葉が多収で、糖含有率が高く、高品質なイネWCSを生産できる。
- ・しかし、縹葉枯病に対して罹病性であり、稲麦二毛作地帯等の縹葉枯病が発生しやすい地域では栽培が難しい。
- ・そこで、「たちすずか」に代わる、高品質で縹葉枯病に抵抗性を持つイネWCS専用品種の育成が求められている。

## 研究成果の内容

### 縹葉枯病抵抗性で茎葉多収、高糖分なイネWCS専用品種

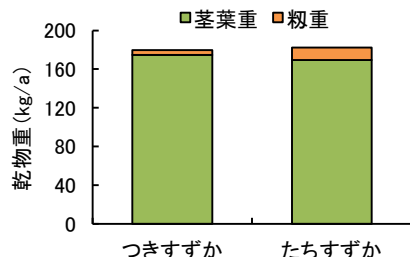
#### 縹葉枯病に抵抗性

品種名	出穂期 (月・日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	縹葉枯病
つきすずか	9.03	121	12.9	抵抗性
たちすずか	9.02	119	14.8	罹病性

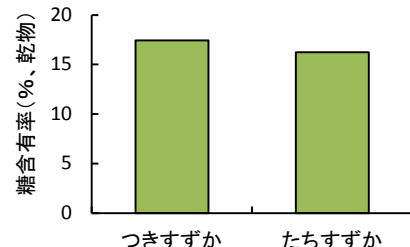


たちすずか つきすずか タチアオバ

#### 茎葉多収 (茎葉重:有意差なし) 籾重:有意差あり

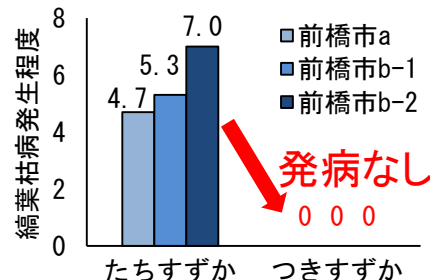


#### 高糖分 (有意差なし)



導入メリット

1. 茎葉多収のため排泄される未消化糲が少なくなる。
2. 「たちすずか」と糖含有率に差がない高糖分。
3. 縹葉枯病常発地でも導入が可能。
4. 倒伏性は「たちすずか」にはやや劣る。
5. いもち病に対しては抵抗性遺伝子を保有するが、圃場抵抗性は不明。



縹葉枯病常発地における発病程度(2016年)  
調査方法は「発生予察事業の調査実施基準」に準ずる。発病程度は、0:無、1~5:少、6~11:中、11~30:多、31以上:甚である。



縹葉枯病常発地での「つきすずか」生育 (2016年群馬県前橋市)

#### 農林水産省 穀物課のコメント

米麦二毛作地帯でも栽培可能な縹葉枯病抵抗性を備えた品種です。水田フル活用と耕畜連携により、耕種農家・畜産農家の双方の経営に資することが期待されます。

#### 農林水産省 飼料課のコメント

倒伏やいもち病発生に気を配ることで、縹葉枯病の発生地域でも「たちすずか」と同様に高品質、高収量な稲WCSの生産が期待されます。

## 期待される効果

- ・高品質なイネWCSの生産可能地域の拡大と飼料自給率の向上に寄与。

導入をオススメする対象  
関東以西の稲発酵粗飼料生産農家